

街路樹診断カルテ

No. 39

路線名	センター広場		樹木医 関 敏之		診断日	2024年08月07日	
樹木番号	39		樹高(H) = 13.0 m 幹周(C) = 138 cm 枝張(W) = 5 m				
樹種名	ケヤキ	植栽形態	☒ 単独枿 ☐ 植栽帯 ☐ 緑地内 ☐ その他			支柱	☐ 良好 ☒ なし ☐ 破損

活力診断	樹勢	枝の伸長量、梢端の枯損、枝の枯損、葉の密度、葉の大きさ、葉色等			良 ← ☐ 1 ☒ 2 ☐ 3 ☐ 4 ☐ 5 → 不良		
	樹形	主幹・骨格となる大枝・枝などの枯損及び欠損、枝の密度と配置等			☐ 1 ☒ 2 ☐ 3 ☐ 4 ☐ 5		
	所見	枝条部は梢端に枯れ枝が見られるが、大きな枯れ枝などは見られない					
	活力判定	☒ 健全か健全に近い ☐ 注意すべき被害が見られる ☐ 著しい被害が見られる ☐ 不健全					
	診断内容	部位	根元	幹	骨格となる大枝		
	樹皮枯死・欠損・腐朽 (周囲長比率)		☒ なし ☐ 1/3未満 ☐ 1/3以上	☒ なし ☐ 1/3未満 ☐ 1/3以上	☒ なし ☐ 1/3未満 ☐ 1/3以上		
	芯に達していない開口空洞 (周囲長比率)		☒ なし ☐ 1/3未満 ☐ 1/3以上	☐ なし ☒ 1/3未満 ☐ 1/3以上	☒ なし ☐ 1/3未満 ☐ 1/3以上		
	芯に達した開口空洞 (周囲長比率)		☒ なし ☐ 1/3未満 ☐ 1/3以上	☒ なし ☐ 1/3未満 ☐ 1/3以上	☒ なし ☐ 1/3未満 ☐ 1/3以上		
	上記3項目のうち 最大被害部の周囲長比率	被害部幅 20	被害部周囲長 163	周囲長比率 = 12.3 %	被害部幅 42	被害部周囲長 163	周囲長比率 = 25.8 %
	キノコ(子実体)		☒ なし ☐ あり()	☒ なし ☐ あり()	☒ なし ☐ あり()	☒ なし ☐ あり()	
木槌打診(異常音)		☐ なし ☒ あり(大 0-40cm)	☒ なし ☐ あり()	☒ なし ☐ あり()	☒ なし ☐ あり()		
分岐部・付根の異常		☒ なし ☐ あり()	☒ なし ☐ あり()	☒ なし ☐ あり()	☒ なし ☐ あり()		
胴枯れなどの病害		☒ なし ☐ あり()	☒ なし ☐ あり()	☒ なし ☐ あり()	☒ なし ☐ あり()		
虫穴・虫フン、ヤニ		☒ なし ☐ あり()	☒ なし ☐ あり()	☒ なし ☐ あり()	☒ なし ☐ あり()		
根元の揺らぎ		☒ なし ☐ あり()	建築限界越え 車道側		建築限界越え 歩道側		
鋼棒貫入異常		☒ なし ☐ あり()	幹	☒ なし ☐ あり	幹	☒ なし ☐ あり	
巻き根		☒ なし ☐ あり()	()	()	()	()	
ルートカラー		☐ 見える ☒ 見えない(不明 パーライト)	枝	☒ なし ☐ あり	枝	☒ なし ☐ あり	
露出根被害		☒ なし ☐ あり()	()	()	()	()	
不自然な傾斜		☒ なし ☐ あり()					
外観診断	所見	根本付近の幹部分に2か所、樹皮の欠損部位が確認できる(それぞれ44cm×23cm、20cm×18cm) 土壌の改良資材が露出しており、資材の役割が果たせていない ルートカラーの発達が見られない					
	判定・処置	部位	根元	幹	骨格となる大枝		
	健全か健全に近い		☐	☐	☒		
	注意すべき被害が見られる		☐	☐	☐		
	著しい被害が見られる		☒	☒	☐		
	不健全		☐	☐	☐		
	処置		☐	☐	☐		
	機器診断が必要		☐	☐	☐		
	外観診断判定	☐ A:健全か健全に近い ☐ B1:注意すべき被害が見られる ☒ B2:著しい被害が見られる ☐ C:不健全					
	判定理由	株元の樹皮欠損は2か所あり、大きいため腐朽の進行による幹折れの危険がある					

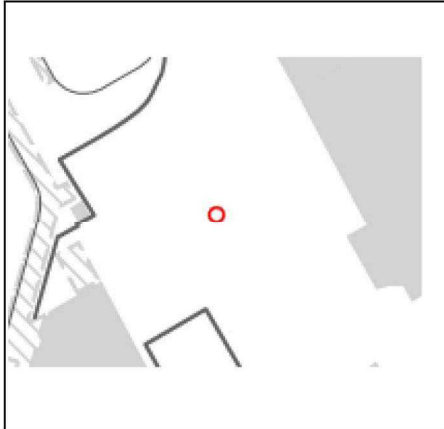
機器診断	測定データ1	部位()	腐朽空洞率: %	t/R率: ①	②	③	④
	測定データ2	部位()	腐朽空洞率: %	t/R率: ①	②	③	④
	所見	ドクターウッズでの機器診断結果は、地上高0.1m位置での調査で腐朽率が31.96%である 解析位置付近に大きな開口が確認でき、樹皮の巻き込みが行われていないことから、腐朽は進行中であると考え					

総合判定	☐ A:健全か健全に近い ☐ B1:注意すべき被害が見られる ☐ B2:著しい被害が見られる ☒ C:不健全
判定理由	樹皮の欠損があること、内部異常があることなどから不健全な状態にある

街路樹診断カルテ

No. 39

処置 内容	必要性	☐ なし	☒ あり	緊急性	☐ なし	☒ あり
	☐ 要観察(長期周期)			☐ 要観察(短期周期)		
	☐ 剪定(枯枝)	☐ 腐朽枝等	☐ 支障枝	☐ 風圧軽減	☐ スタブカット	☐ 巻き根
	☐ 樹体保護()			☐ 植栽基盤の改善()		
	☐ 根上がり()			☐ 病虫害防除()		
	☒ 更新(撤去・更新が望ましい)			☐ その他()		
摘要						



立地平面図



診断概要図



幹の樹皮欠損 その1 44cm*23cm
(周長163cm)



幹の樹皮欠損 その2 20cm*18cm
(周長163cm)



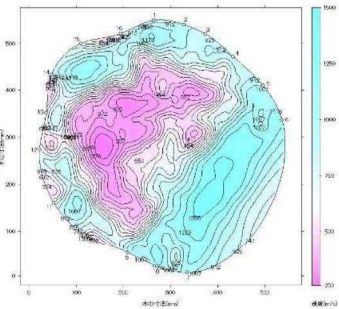
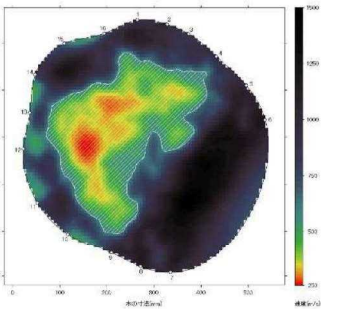
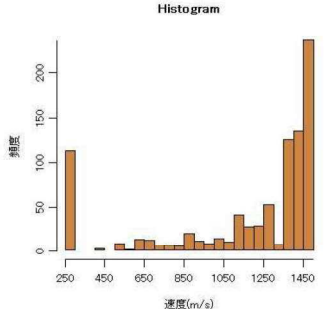
土壌改良材の露出

その他特記事項

次回診断	☐ フォローアップ診断(☐ 要機器診断 測定部位:) ☐ 外観診断	
次回再診断時期	☐ 1年後 ☐ 2年後 ☐ 3年後 (年度)	
位置座標 (WGS84)	緯度 36.08218	経度 140.1131888

樹種	ケヤキ		場所	茨城県つくば市	調査月日	2024/8/7
形状	樹高 m	幹周 m	摘要	つくばセンター広場	樹木医	関 敏之
	10.0	1.61				
全景			状況、部位、他			
						

測定位置	高さ(H)	0.10m	測点	16 箇所	計測 周波数	50.00 KHz
	平均径(D)	0.51m				

診断結果	  							
	図1 解析コンター面図 図2 解析断面図 図3. 音速分布図							
	<table><tr><td>腐朽・空洞率</td><td>31.967</td><td>%</td></tr><tr><td>欠損部位</td><td colspan="2">-</td></tr></table>			腐朽・空洞率	31.967	%	欠損部位	-
腐朽・空洞率	31.967	%						
欠損部位	-							
	計測点 6: 開口部わき 計測点 7: 開口部わき							
所見・対策	センサーNo.6～7間は開口部となっている。 開口部に閉塞措置を行っているものの、樹勢が低いために樹皮の再生が順調に行われていないため、開口部が閉塞されないままになっている。 腐朽率は30%台であるため、大きな内部異常では無いものの、樹皮欠損や開口部を勘案すると、植え替え更新措置が必要であると判断する。		総合判定					
			C 20%～40%					

街路樹診断カルテ

No. 40

路線名	センター広場		樹木医 関 敏之		診断日	2024年08月07日	
樹木番号	40		樹高(H) = 13.0 m 幹周(C) = 126 cm 枝張(W) = 5 m				
樹種名	ケヤキ	植栽形態	☒ 単独枿 ☐ 植栽帯 ☐ 緑地内 ☐ その他			支柱	☐ 良好 ☒ なし ☐ 破損

活力診断	樹勢	枝の伸長量、梢端の枯損、枝の枯損、葉の密度、葉の大きさ、葉色等			良 ← ☐ 1 ☒ 2 ☐ 3 ☐ 4 ☐ 5 → 不良				
	樹形	主幹・骨格となる大枝・枝などの枯損及び欠損、枝の密度と配置等			☐ 1 ☒ 2 ☐ 3 ☐ 4 ☐ 5				
	所見								
	活力判定	☐ 健全か健全に近い ☒ 注意すべき被害が見られる ☐ 著しい被害が見られる ☐ 不健全							
	診断内容	部位	根元	幹	骨格となる大枝				
	樹皮枯死・欠損・腐朽 (周囲長比率)		☐ なし ☒ 1/3未満 ☐ 1/3以上	☐ なし ☒ 1/3未満 ☐ 1/3以上	☐ なし ☐ 1/3未満 ☐ 1/3以上				
	芯に達していない開口空洞 (周囲長比率)		☐ なし ☒ 1/3未満 ☐ 1/3以上	☐ なし ☒ 1/3未満 ☐ 1/3以上	☐ なし ☐ 1/3未満 ☐ 1/3以上				
	芯に達した開口空洞 (周囲長比率)		☐ なし ☐ 1/3未満 ☐ 1/3以上	☒ なし ☐ 1/3未満 ☐ 1/3以上	☐ なし ☐ 1/3未満 ☐ 1/3以上				
	上記3項目のうち 最大被害部の周囲長比率	被害部幅 35	被害部周囲長 145	周囲長比率 = 24.1 %	被害部幅 35	被害部周囲長 145	周囲長比率 = 24.1 %	枯枝 ☐ なし ☐ あり()	スタブカット ☐ なし ☐ あり()
	キ ノ コ (子実体)	☒ なし ☐ あり()	☐ なし ☐ あり()	☐ なし ☐ あり()	☐ なし ☐ あり()				
木槌打診(異常音)	☒ なし ☐ あり()	☐ なし ☒ あり()	0-60	☐ なし ☐ あり()					
分岐部・付根の異常	☒ なし ☐ あり()	☐ なし ☐ あり()	☐ なし ☐ あり()	☐ なし ☐ あり()					
胴枯れなどの病害	☒ なし ☐ あり()	☐ なし ☐ あり()	☐ なし ☐ あり()	☐ なし ☐ あり()					
虫穴・虫フン、ヤニ	☒ なし ☐ あり()	☐ なし ☐ あり()	☐ なし ☐ あり()	☐ なし ☐ あり()					
根元の揺らぎ	☒ なし ☐ あり()	建築限界越え 車道側		建築限界越え 歩道側					
鋼棒貫入異常	☒ なし ☐ あり()	幹	☒ なし ☐ あり	幹	☒ なし ☐ あり				
巻き根	☒ なし ☐ あり()	()	()	()	()				
ルートカラー	☐ 見える ☒ 見えない(不明 パーライト)	枝	☒ なし ☐ あり	枝	☒ なし ☐ あり				
露出根被害	☒ なし ☐ あり()	()	()	()	()				
不自然な傾斜	☒ なし ☐ あり()								
所見	株元に樹皮欠損が確認できる35cm*45cm(145cm) 樹皮欠損部分で硬材の露出があり、腐朽の進行が懸念される								
部位判定	判定・処置	部位	根元	幹	骨格となる大枝				
	健全か健全に近い		☐	☐	☐				
	注意すべき被害が見られる		☐	☐	☐				
	著しい被害が見られる		☒	☐	☐				
	不健全		☐	☐	☐				
処置	剪定が必要		☐	☐	☐				
	機器診断が必要		☐	☐	☐				
外観診断判定	☐ A:健全か健全に近い ☐ B1:注意すべき被害が見られる ☒ B2:著しい被害が見られる ☐ C:不健全								
判定理由	株元の樹皮欠損および木材露出が大きい								

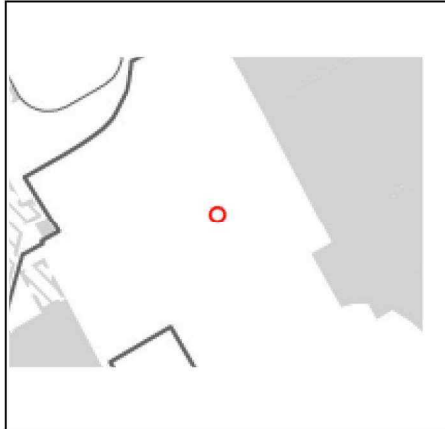
機器診断	測定データ1	部位()	腐朽空洞率: %	t/R率: ①	②	③	④
	測定データ2	部位()	腐朽空洞率: %	t/R率: ①	②	③	④
	所見	ドクターウッズでの機器診断結果は、地上高0.3m位置での調査で腐朽率が27.34%である 大きく木材の露出している部分があり、空洞が目視確認できるため、内部の空洞は拡がりつつあると考える					

総合判定	☐ A:健全か健全に近い ☐ B1:注意すべき被害が見られる ☒ B2:著しい被害が見られる ☐ C:不健全
判定理由	株元の木材露出は大きく、幹折れの危険があるため

街路樹診断カルテ

No. 40

処 置 内 容	必要性	☐ なし	☒ あり	緊急性	☐ なし	☒ あり
	☐ 要観察(長期周期)			☐ 要観察(短期周期)		
	☐ 剪定(枯枝)	☐ 腐朽枝等	☐ 支障枝	☐ 風圧軽減	☐ スタブカット	☐ 巻き根
	☐ 樹体保護()			☐ 植栽基盤の改善()		
	☐ 根上がり()			☐ 病虫害防除()		
	☒ 更新(撤去・更新が望ましい)			☐ その他()		
	摘 要					



立地平面図



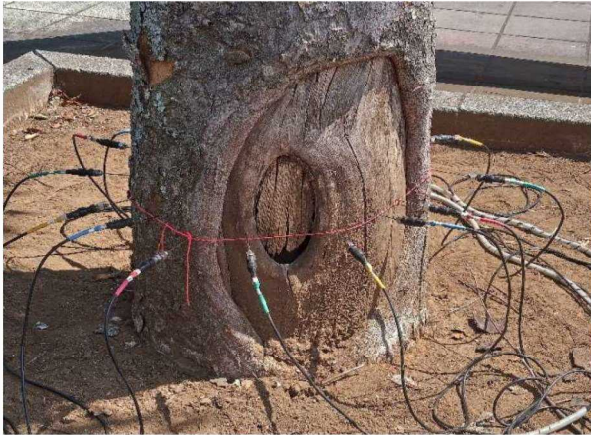
診断概要図



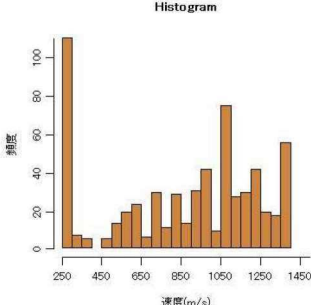
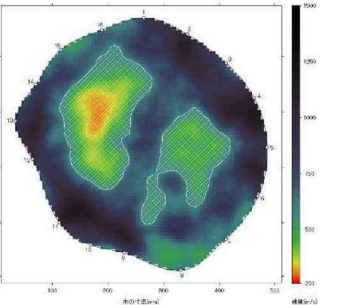
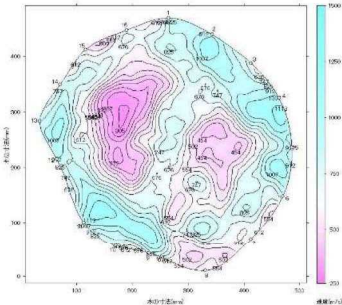
幹の樹皮欠損部

そ
の
他
特
記
事
項

次回診断	☐ フォローアップ診断(☐ 要機器診断 測定部位:)		☐ 外観診断
次回再診断時期	☐ 1年後 ☐ 2年後 ☐ 3年後 (年度)		
位置座標 (WGS84)	緯度 36.08222	経度 140.1132834	

樹種	ケヤキ		場所	茨城県つくば市	調査月日	2024/8/7
形状	樹高 m	幹周 m	摘要	つくばセンター広場	樹木医	関 敏之
	10.0	1.38				
全景			状況、部位、他			
						

測定位置	高さ(H)	0.30m	測点	16 箇所	計測 周波数	50.00 KHz
	平均径(D)	0.44m				

診断結果	 図1 解析コンター面図 図2 解析断面図 図3. 音速分布図	<table><tr><td>腐朽・空洞率</td><td>27.3499</td><td>%</td></tr><tr><td>欠損部位</td><td colspan="2">-</td></tr></table>	腐朽・空洞率	27.3499	%	欠損部位	-	
	腐朽・空洞率	27.3499	%					
欠損部位	-							
所見・対策	センサーNo.9～12間は樹皮欠損により木材が露出している箇所となり、外観診断でも内部に空洞が確認できる。調査結果は27%程度ではあるものの、樹皮の再生がほとんど行われていない状態であり、今後は露出した木材部分から腐朽がさらに進行する恐れがある。長期的には植え替え更新が必要になる樹木であると考える。							
	総合判定	C 20%～40%						